

金沢大学創基150年記念事業「講演会・シンポジウム」シリーズ(第3回発がんスパイラル国際シンポジウム&金沢国際がん生物学シンポジウム)を開催

2013年1月25日

1月24日(木)～25日(金)の両日、金沢エクセルホテル東急において、がんの基礎的並びに臨床的研究の一層の発展を目的とし、毎年がん進展制御研究所が主催となっていて行っている「金沢国際がん生物学シンポジウム」を開催しました。

今回のシンポジウムは、文部科学省科学研究補助金新学術領域「感染・炎症が加速する発がんスパイラルとその遮断に向けた制がんベクトル変換」との共同開催であり、シンガポール、米国、英国、仏国を含む国内外のがん研究領域をリードする研究者をシンポジストとして迎え、2日間で延べ421人(1日目:211人 2日目:210人)が参加し、がん微小環境、がん幹細胞、自然免疫等に関する先端的ながん研究に関する最新の研究成果報告と、活発な質疑応答や意見交換が行われました。

また、本シンポジウムは大学院医学系研究科及び医薬保健学総合研究科の授業科目として認定されており、大学院生も2日間で延べ100人(1日目:50人 2日目:50人)が参加し、ポスター会場においては、積極的に発表者に質問する光景が見られる等、最新のがん研究に対して理解を深める絶好の機会となりました。



シンポジウム会場玄関



開会挨拶：がん進展制御研究所
向田 直史 所長



がん進展制御研究所
大島 正伸 教授



MD Anderson Cancer Center ,USA
Dr.Dingzhi Wang



Univ.of Lyon,France
Dr.Partric Mehlen



National Univ.of Shingapore,Shingapore
Dr.Yoshiaki Ito



A-Star Inst,Medical Biol.,Singapore
Dr.Nick Barker



慶応義塾大学
佐谷 秀行 教授



Cancer Research UK,UK
Dr.Ilaria Malanchi



閉会挨拶：東京大学
畠山 昌則 教授



ポスターセッション会場の様子